

エゾマツ

マツ科
トウヒ属
樹高
30~40m



枝は垂れ下がり
トドマツより
優しい印象

種を食べるエゾリス

四季の観察ポイント

春

雌花は前年の
枝先につく



雄花

幹の中の
虫を食べる
クマゲラ

夏

葉は先がとがる
葉の付け根には
凸型の突起(葉枕)
が目立つ



秋

完全に熟した
松ぼっくりは
枝先に
垂れ下がる



種子

冬

冬芽は三角で松ヤニに覆われる



樹皮はアカエゾマツと
比べてなめらか



リミノび・総日記

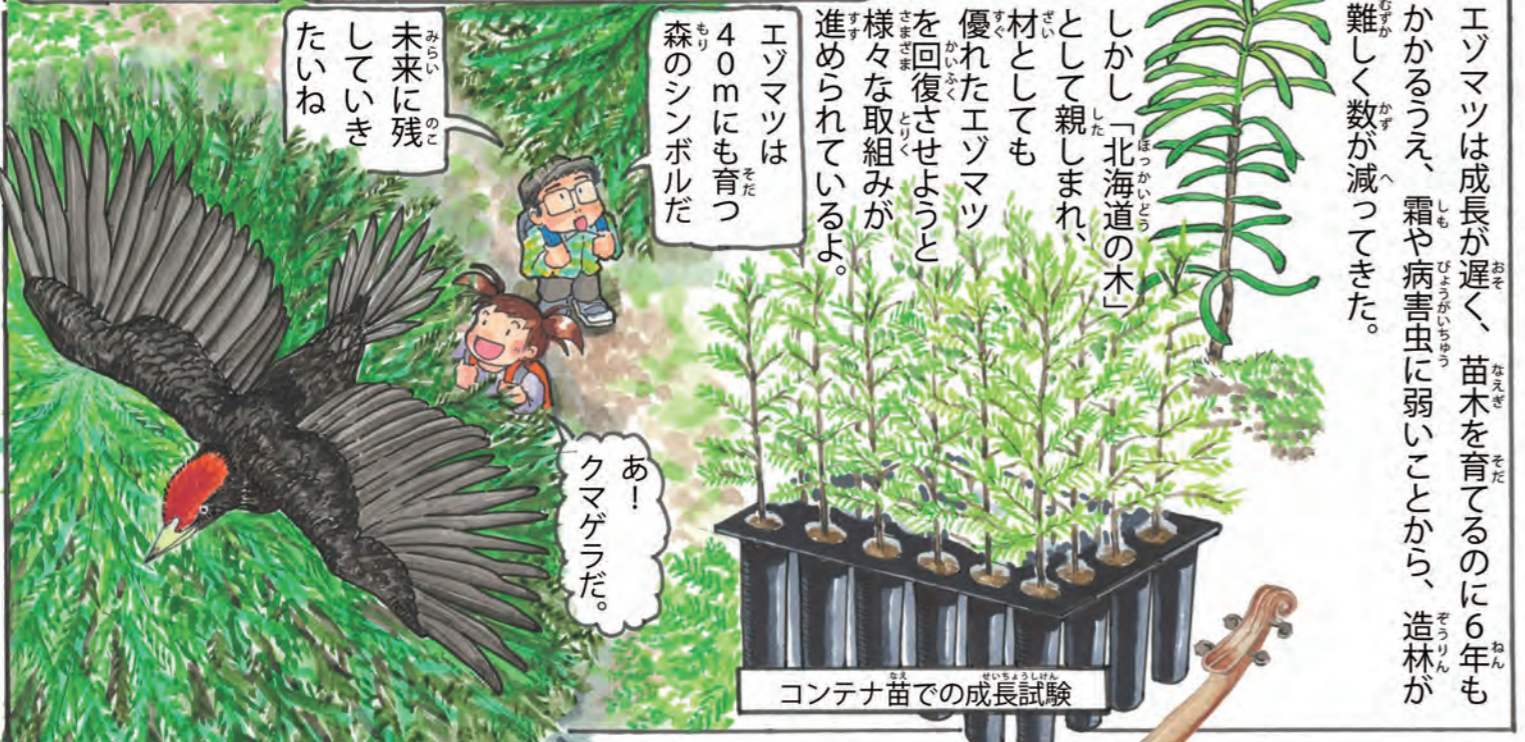
今日(きょう)は
登山(とせん)に
来(き)ています。

あれは
エゾマツの
倒木(たうぼく)更新(こうしん)だね

エゾマツの種(たね)や幼木(おきな)は
菌(かび)にとっても弱いから

運(はこ)ぶとよく
倒(た)れた
木(き)の上(うへ)に
落(お)ちた種(たね)だけ
が生き残(のこ)るんだ。

成長(せいちょう)して根元(ねもと)の
木(き)がなくなると
空洞(くうどう)ができて
「根(ね)あがり」に
なることも
あるよ。



エゾマツは成長(せいちょう)が遅(おそ)く、苗木(なえぎ)を育て(そだ)てるのに6年(むね)も
かか(か)るうえ、霜(しも)や病虫(びやうちゅう)に弱(よわ)いことか(か)ら、造林(ぞうりん)が
難(むず)しく数(かず)が減(へ)ってき(き)た。

しかし「北海道(ほっかいどう)の木(き)」
として親(おや)しまれ、
材(ざい)としても

優(すぐ)れたエゾマツ
を回復(かいふく)させよう(よう)と
様々(さまざま)な取組(とくぐみ)が
進め(すす)められてい(い)るよ。

エゾマツは
40mにも育(そだ)つ
森(もり)のシンボル(シンボル)だ

未来(みらい)に残(のこ)り
してい(い)き
たいね

あ!
クマゲラだ。

コンテナ苗(なえ)での成長(せいちょう)試験(しけん)



エゾマツとくまのつながり

エゾマツは木目(きめ)がまっすぐで美(うつく)しく、曲(ま)げ
加工(かこう)がしや(し)やすいこと(こと)から、建築材(けんちくざい)や家具材(かぐざい)、
ギター(ギター)やバイオリン(バイオリン)とい(い)った楽器材(がくぎ)材(ざい)に活(くわ)用(よう)さ
れてき(き)ました。

アイヌ民族(アイヌ)とエゾマツ

エゾマツの枝(えだ)は垂(た)れ下(くだ)がり、屋根(やね)のよう
になること(こと)から、冬(ふゆ)にエゾマツの下(した)で火(ひ)を
焚(たき)くこと(こと)で命(いのち)が助(たす)かった話(はなし)があ(あ)ります。

また松ヤニ(まつやに)はあかぎれ(あかぎれ)の薬(くすり)にした(した)そう(そう)です。

また繊維(せんい)が
長(なが)いため、パ
ルプ材(パルプ)にも最
適(最適)です。

エゾマツは高さ40mにもなる北海道の
森の屋根を支える針葉樹で、「北海道の木」
に選ばれています。

幹から出る枝が垂れ下がることから「天
まで届かんでもえーぞのエゾマツ」と覚え
ます。

光の届かない環境にも耐えることができ
ますが、小さいときの成長は遅く、大きく
成長するには明るい環境を必要とします。

地面の上では種子が菌の害を受けて発芽で
きないため、倒れた木や切り株の上に芽生
えて成長します。根が浅く水分を好むため、
乾燥した土地では育ちません。